

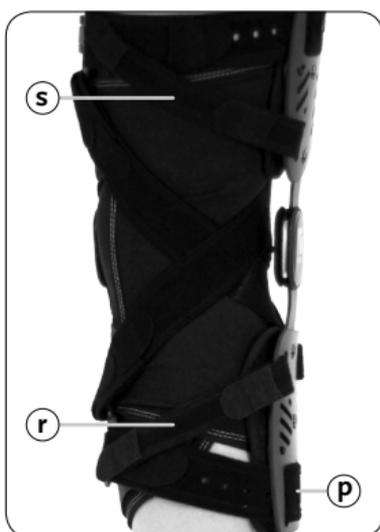
Instructions for use

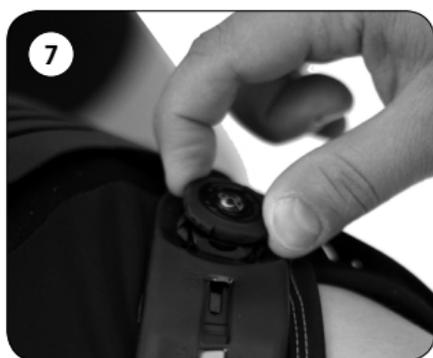


**Rebound® Cartilage
with Flexion Control Kit**



Life Without Limitations®





多言語取説の日本語訳です。
図の番号については、多言語取説の写真を参照ください。

警告：この製品は 1 人のみによる使用を想定して設計ならびに試験されています。複数の使用者への使いまわしをしないでください。感染のリスクが増加することに加え、中古の部品に目立たない欠陥があり、理想的な機能が発揮できない場合や、機械的な故障につながる場合も考えられます。製品の使用中に何らかの問題が起きた場合は、直ちに医療従事者に連絡してください。

部品リスト (図 1)

- (a) 上部カートリッジ保護ストラップ (CPS)
- (b) 下部カートリッジ保護ストラップ (CPS)
- (c) 大腿ストラップ
- (d) 下腿ストラップ
- (e) 多軸継手
- (f) 大腿シェル
- (g) 下腿シェル
- (h) クイックフィットバックル
- (i) バックル保持シェルフ
- (j) アリゲータークリップ
- (k) 上部調整ダイヤル
- (l) 下部調整ダイヤル
- (m) 巻きつけ式スリーブ
- (n) スリーブフック
- (o) 屈曲コントロール継手
- (p) 屈曲コントロールストラップアタッチメント
- (q) 脛骨ストラップ
- (r) 下腿後方ストラップ
- (s) 大腿後方ストラップ

リバウンドカートリッジの適応

- 単顆部の負荷軽減や関節可動域制限を必要とする軟骨修復手術後。
- 負荷軽減や関節可動域制限による利点があり、疼痛除去を必要とする膝軟骨外傷。
- 以下のような負荷軽減や関節可動域制限、疼痛除去による利点があるその他の膝単顆部の状況。：
 - 半月板修復
 - 虚血性壊死
 - 顆部骨髄傷害 (骨打撲)

取扱説明書 リバウンドカートリッジ

- 周径による制限（以下の方はご使用できません）
 - 大腿周径が 34.3 cm以下、または 73.5 cm以上
 - 下腿周径が 25 cm以下、または 61.5 cm以上

注意

- 膝窩嚢胞、末梢血管障害、神経障害の症状がある方や皮膚が敏感な方は、医師による綿密な管理を推奨します。皮膚が過敏な方は、使用に耐える場合にのみリバウンドカートリッジの使用を推奨します。皮膚に赤みが出た場合には、使用を控えてください。皮膚が装具の使用に耐えられるようになるに従い、少しずつ使用時間を増やしてください。
- リバウンドカートリッジは装着の快適性に関しては、使用者自身がその場で調整できます。屈曲または伸展制限、継手やシェルの形態に関しては、医療従事者のみが調整を行うべきです。医療従事者は使用者に対しカートリッジ保護ストラップの使用方法について、責任をもって指導してください。

初回の適合と調整

1. 使用者の下肢に装具を取りつけます。継手の中心を膝蓋骨の中心、膝関節の前後の中心に合わせます。
2. 下腿クイックフィットバックルのボタンをバックル保持シェルフの適切な鍵穴に入れ、注意しながら掌を使ってバックルをはめ込みます。**(図 2)** 直感的にストラップを選択できるように、ボタンの色は鍵穴の青い色と同じになっています。
3. 大腿クイックフィットバックルのボタンを適切な鍵穴に入れ、注意しながら手掌でバックルを閉じます。直感的にストラップを選択できるように、ボタンの色は鍵穴の黄色と同じになっています。
4. 大腿、下腿ストラップの締め具合を調整し、必要なら余分を切り取ります。
5. 大腿、下腿ストラップの上にある屈曲コントロールシェルの位置を調整します。
6. ストラップの上にある適切な穴の中にピンを入れます。
7. 下腿シェルの換気スロットの上にある「ツイストフィットアタッチメント（裏側が面ファスナーでパッドを固定している円形パーツ）」を使い、脛骨ストラップを本体フレームに取りつけます。
8. 後方下腿ストラップについているフックタブをクイックフィットバックルの近くにある下腿ストラップ本体に取りつけます。
9. 大腿ストラップも同様にして取り付け、フックタブが大腿のクイックフィットバックルの近くに位置するようにします。
10. 使用者の膝を 45° に屈曲してもらい、上下のカートリッジ保護ストラップを「0」にセットします。スリーブフックをはがして緩め、下腿部から順番にストラップの締め具合を調整します。**(図 3)** 上下のストラップが適切に調整されている状態では、負荷を軽減する力がかかっていない状態で、ストラップ全体が使用者の下肢に接触します。この装具に関節可動域制限をかけて使用する場合には、処方された制限を超えて

取扱説明書 リバウンドカートリッジ

膝を屈曲させてはいけません。また、上下のストラップの締め具合を処方された関節可動域制限の範囲内で調整してください。何らかの疑問が生じた場合には、必ず担当医の指示を仰いでください。

使用者への装着

1. 上下のクイックフィットバックルを開きます。
2. 上下のカートリッジ保護ストラップを「0」位置まで緩めます。
3. 使用者の下肢に装具を取りつけます。継手の中心を膝蓋骨の中心、膝関節の前後の中心に合わせます。
4. 下腿クイックフィットバックルのボタンをバックル保持シェルフの適切な鍵穴に入れ、注意しながら掌を使ってバックルをはめ込みます。(図 2)
5. 足底全体を床面に接地させた状態で、膝を 80° に屈曲します。ただし、装具に関節可動域制限をかけて使用する場合には、処方された制限を超えて膝を屈曲させてはいけません。
6. 大腿クイックフィットバックルのボタンを適切な鍵穴に入れ、掌を使って注意深くはめ込みます。
7. 上下の調節ダイヤルを時計回りに回し、カートリッジ保護ストラップを処方された位置まで締め付けます。(図 4) 医療従事者は使用者からの疼痛除去の反応に基づいて、理想的な負荷軽減状態を判断する必要があります。ストラップの締め具合は、調節ダイヤルを使って「5」にセットした状態で、最適な疼痛除去を得られるように調整されていなければなりません。
8. 着座した状態で膝を完全伸展させ、この状態でも装具が正しい位置に装着されていることを確認して下さい。(図 5) 装具に関節可動域制限をかけて使用する場合には、処方された制限を超えて膝を屈曲させてはいけません。また、上下のストラップの締め方を処方された関節可動域制限の範囲内で調整してください。何らかの疑問が生じた場合には、必ず担当医の指示を仰いでください。
9. カートリッジ保護ストラップが最大まで牽引された状態にあり、使用者がそれ以上の疼痛除去を望む場合には、上下のストラップを上下のクイックフィットバックルの位置で短縮する必要があります。

注意：使用者に装具を数分装着させ、ストラップが快適に装着できているかを確認してください。

装具の取り外し

1. 膝を 90° に屈曲して着座します。ただし、装具に関節可動域制限をかけて使用する場合には、処方された制限を超えて膝を屈曲させてはいけません。処方された関節可動域制限の範囲内で装具を外してください。何らかの疑問が生じた場合には、必ず担当医の指示を仰いでください。
2. 上下の調節ダイヤルを反時計回り回し、カートリッジ保護ストラップを緩めて「0」

取扱説明書 リバウンドカートリッジ

まで戻します。(図 7)

3. 上下のクイックフィットバックルを開きます。
4. クイックフィットバックルを鍵穴から外します。
5. 装具を下肢から外します。

ストラップ長の調整 (推奨：一度に調整)

1. アリゲータークリップを外し、必要な長さにストラップを切り取ります。アリゲータークリップはクイックフィットバックルの近く、膝窩部を避けて配置する必要があります。(図 8) 注意：カートリッジ保護ストラップを快適に調整するには、スリーブフックが角カンに干渉しないよう、先に戻しておくことをお勧めします。
2. 全てのストラップに同じ工程を繰り返します。

関節可動域 (ROM) 調整

装具は工場出荷の状態では伸展制限 0° に設定されています。設定により、5°、10°、15° および 30° の位置で伸展を制限することができます。0°、30°、60°、90° での屈曲制限を設定することもできます。

注意：この装具は最大伸展位で最適な矯正力がかかるように設計されています。使用者が伸展制限を必要とし、より大きな負荷の軽減を必要とする場合には、必ずカートリッジ保護ストラップを再調整してください。

関節可動域の変更

1. 継手から顎部パッドを外し、ネジを露出させます。
2. 留めネジを外します。
3. 0° ストップ部品を継手から外します。
4. 必要な角度の伸展／屈曲ストップ部品を取りつけます。
5. 留めネジをしっかりと取りつけます。(締め付け過ぎないでください。)
6. 屈曲制限をつけるには、1、4、5のみを行います。

装具のメンテナンス

リバウンドカートリッジは最低限のメンテナンスとお手入れでお使いいただけるよう設計されています。装具を最適な状態でお使いいただくためには、以下の簡単なメンテナンス方法に従ってください。

お手入れ

- ライナースリーブとライナーは有害な細菌の繁殖を防ぐため、殺菌剤で清拭することができます。抗菌性のある洗剤で週に一度、拭き取りを行ってください。
- よりしっかりと洗剤が必要な場合に：ライナー、ストラップとストラップパッドを取り外して洗剤洗うことができます。
- 洗剤洗う際には、スリーブフックは外さずにライナースリーブストラップに取りつけた

取扱説明書 リバウンドカートリッジ

ままにしておくことをお勧めします。

- 洗浄する際には刺激が少なく、洗浄剤の入っていない石鹼を使い、手洗いしてください。
- **洗濯機を使用しないでください。**
- **衣類用乾燥機を使用しないでください。**
- 洗浄後はよく石鹼を洗い落とし、空気乾燥させてください。
- 洗浄後に正しくストラップを取りつけるには、取り付け後の最終形である **図 9** をご参照ください。

継手

- 安全のため、継手は医療従事者のみ分解することができます。
- 定期的に継手に異物（ほこりなど）が入っていないかを確認してください。
- 継手から異物を除去する際には、水道水や圧縮空気を使用してください。

注意：装具を海水や塩素消毒した水の中で使用した場合には、新鮮な水道水でよく洗い流し、空気乾燥してください。定期的にメンテナンスを行うことにより、継手、ライナー、ストラップやパッドを最適な状態で使用することができます。

補修パーツ

オズールはリバウンドカートリッジの特定の用途に適合した補修パーツを提供しています。それらのパーツは弊社またはご購入の販売店を通じて購入することができます。：

- 巻きつけ式スリーブ
- 内側ライナー
- ストラップ
- ストラップパッド
- 下腿部ライナー
- 懸垂ストラップキット（**注意：**下腿部ライナーと併用することをお勧めします）
- アンダースリーブ（**注意：**皮膚が敏感な方に最適な解決策は、装具に付属しているライナーを使用することです）

輸入・販売元

パシフィックサプライ株式会社

本社 〒574-0064 大阪府大東市御領1-12-1

TEL (072) 875-8008 FAX (072) 875-8010

<https://www.p-supply.co.jp/>